

令和2年度 第2回 山梨県教員育成協議会 議事概要

I 日時 : 令和2年11月6日(金) 午前10時～午前11時20分

II 場所 : 山梨県防災新館 教育委員会室

III 出席者

委員 7人(敬称略)

小林 厚(会長)、中村和彦、廣田 健、小澤建二、内藤伊久磨、小川弘一、下倉史彦
事務局 17人

教育監(義務)、教育監(高校)、理事、次長(総務課長事務取扱)、働き方改革推進監、義務教育課長、高校改革・特別支援教育課長、保健体育課長、総合教育センター所長、義務教育課人事管理監、高校教育課指導監、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、総合教育センター研修指導課主任、総務課総括課長補佐、総務課副主査、総務課主事

IV 傍聴者などの数 なし

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 報告

(1) 第1回山梨県教員育成協議会の概要について

事務局

資料に基づき、山梨県教員育成協議会議事概要について報告。

(2) 採用・人事部会より

事務局

資料に基づき報告。

(3) 養成部会より

事務局

資料に基づき報告。

(4) 育成部会より

事務局

資料に基づき、「山梨における教員育成推進事業」による山梨大学との連携について報告。

4 議事

(1) 令和2年度総合教育センター研修会の成果と課題について

事務局

資料に基づき、令和2年度総合教育センター研修会の成果と課題について説明。

議長

コロナ禍の厳しい状況において、色々な工夫をされて実施をしたという報告です。

(2) 令和3年度総合教育センター研修会企画について

事務局

資料に基づき、令和3年度総合教育センター研修会企画について説明。

委員

I C Tを活用した授業というのは、今後かなり重要になってくる。これはコロナ禍のこともありますが、一方G I G Aスクール構想で一台ずつ、小学校中学校の児童生徒が実際に使うわけですから、それに向けてより効果的な活用が重要になってくる。いわゆる授業の技術、I C Tを使い込む技術、どうことができるか、そういったことを、より先生方が知ることも大事であるし、一方でそれをもとに今までと違った教材研究ができる、授業研究ができるということがあると思う。なので、こういった研修会をされることは非常に大事なことだと思いますし、私たちは養成をしているので、できればI C T技術についてきちんと学んだ学生を輩出したいと思っている。なので、今後はまた検討していただいたり、情報交換しながらですけど、別々の大学でやるのではなくて、できれば県のやっている内容を、うちの学生や他の大学の学生も一緒に学ぶということも今後必要になってくる。先取りのI C T教育、先生方にとっても、I C T技術の獲得になると思います。大学でも検討しているが、是非学生に対して、養成の段階で、こういったことができるだけ言って、教科によってかなり特色があるので、国語と数学では同じものを使ってもやり方が違ってくる。使い方が違ってくる。体育では通常自分が運動する姿は見えないが、i P a dを使えばグループ学習も効果的にできる。教科によって特色があると思うので、その辺も学生達に、一緒に学ばせていただくような場の設定をしていただくとありがたい。今後の課題として是非、もちろん大学の教員も全面的に協力するので、お願いしたい。

事務局

ありがとうございます。今のお話を受けまして検討をさせていただきます。

議長

急に大きくI C T化が進んでいるおところでございますので、確かに養成の段階から山梨の状況に合わせた教育をとということで有効であろうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員

特別支援学校でも、G I G Aスクール構想に則って、小学部・中学部に一人一台タブレット、高等部の方にも三人に一台ということでタブレットを導入されるということで聞いておりますので、是非特別支援の方も研修を深めていただきたいと思います。特に教科だけではなくて、特別支援の、例えばコミュニケーションといった面でも使うので、その辺の研修をもう少し増やしていただければと思います。先生方も多く、タブレットを普段良く触れている先生と触れていない先生がいるので、全部の先生方ができるように、また、センターの情報教育の研修会、I C T活用の研修会は確か参加者が多くて、希望が叶わなくて、研修を受けられないというケースがあると思うが、タブレットの数とか規模とか講師の関係もあると思うができるだけ多くの先生方に研修を受けられるように、ご配慮願いたいと思う。学校に講師を派遣していただけると、今もしていると思うが非常に助かる。

事務局

今のお話、承りたいと思います。実際、やはり機材機器等につきましては新たに購入したものの等、少しずつですけれども今増えてきているので、そういったもので希望する方は確かに本当に多くて、なかなかそれを全員の方を受け入れるということが今のところ厳しいこともあったんですが、それについては機材機器等の整備もしながら研修のキャパシティを増やしながらかえて行

けたらというふうに検討させていただきたいと思います。全員の方を受け入れるのは、厳しいところがあったが、機材の整備をしながら、また研修を増やししながら、ちょっと検討させていただきたい。

事務局

小学校・中学校では端末が整備されてきている。それに伴って先生方の研修も大事になってくるため、先ほど報告させていただいたように、ICTに関する研修に力を入れようとしているところである。これまではICT機器の使い方とか、ソフトウェアの基本的な使い方にとどまっていたが、これからは教科等での指導におけるICTの活用について、共通して学んでいくことを考えている。今までとは異なる教材研究や、授業研究の事例が学校現場からどんどん上がってきたり、大学の先生方の目線から見て、これまで学校現場では気づけないような新しい視点をご提示いただいたりできるのではないかと期待している。そういった意味でも、大学と総合教育センターまた教育委員会との連携を色々な機会ですべてさせていただきたい。

研修も総合教育センターが中核となっていくが、全員悉皆の研修を実際にすぐに行うことについては限界がある。したがって、研修を受けた先生がおのおのの現場に戻った際に、今度は校内研修で推進役の一人として活躍いただくような仕組みがこれからはより強く求められてくる。また、ICTはこの先生にお任せするというのではなくて、全員がICT教育の担当者として、全員が持っている実践事例などを、校内でより共有するという流れが大事になってくる。そういう視点から各学校の校内研修をよりお願いするメッセージを出していきたいと思っている。委員の先生方にもご協力いただければと思っている。

議長

ICTに関しては、色々な課題があろうかと思いますが、これから様々なまた委員の皆様のご意見を伺いながら、よりよい方向に進めていければと思います。

(3) 2020やまなし教育フォーラム「山梨県で『学校の先生』になろう！」について

事務局

資料に基づき、2020やまなし教育フォーラム「山梨県で『学校の先生』になろう！」について説明。

委員

大学生がなかなかまだ大変な時期なものですから、ちょっと申し込めないと思うし、また宣伝をさせていただきたい。

高校生のことに関してなんですけども、昨年も出席したが、非常に素晴らしいなと思いました。むしろ大学生より高校生のほうがずっとずっとモチベーションが高いというか、どうやって勉強したらいいですかというような質問が出ましたし、この彼らのモチベーションをやっぱり高めていったりとか、あるいはより県内の高校生で教員を目指す生徒達が分かり易い、このフォーラムももちろん大切なんですけど、もう少し回数を多くということができればと思う。高校生は間に大学はいる。もちろん色々な大学に行かれて、色々な形で教員免許を取られて、是非山梨の教員になってほしいと思っているが、少なくとも県内の大学であれば、協力ができると思っている。例えば高校生に対して連続講座のような形で、大学が協力して、センターとか県の教育委員会と一緒にやりながら彼らのモチベーションを高めていって、山梨の教員になってもらうような仕組みを作れないかと思う。推薦合格者に対して入学前教育を2回行う。できればその前から教育学

部で学ぶこととかを高校生向きにできるようなものを、今後作っていければと思っているので、是非また一緒に、多くの高校生が教員を目指すようにしていただければと思う。

事務局

なかなか複数回ということになると、ちょっと難しい部分というか・・・。

委員

これを複数回というのは大変なので、そうではなくて大学を利用していただいて、大学の教員ができるだけ優しく高校生達に教員はこうだということを県教委の方々にもおいでいただいて、少しずつやっていければと思っているので、相談させて下さい。

(4) 各部会の取組について

事務局

資料に基づき、各部会の取組について説明。

委員

採用の関係で、初任者研修の数が、293名のうち20名程度は研修を割愛できる先生がいるということで良いのか。

事務局

はい。

委員

山梨県の教員になってほしいと言う気持ちは私も強い。研修を割愛できている教員に対して、非常に難しいことかもしれないが、研修を割愛した先生達が配置される学校が、もしかすると奥さんも旦那さんもこっちに戻ってきたい。だけでも生活の基盤が、例えばどこどこで、子どももいるので、それは両親の実家に預けたいというような人が出てくる可能性もゼロではないので、要するに、そういった配慮までももちろんしていると思うんですけども、高校だとどうしても全県での採用になるので、学校の初任者の状況とか欠員の状況を見ると難しいけれど、ちょっとでもハードルを低くして、他県から家族を連れて戻ることができる、これはなかなか文面を出すのは難しいが、山梨はそういった他県から家族を連れて割愛してくれた人たちに対しても、生活の基盤を考慮しながら配置ができるということ、安心感として受験する人たちが増えてくれると良いなと思う。

事務局

初任者研修につきましては、他県等での教職経験がある方は初任者研修が免除されるので、そういうことでの対応をしている。

委員

要するに人事の貼り付けの段階なんですけれど。

事務局

生活の基盤を整えていくことは、学校教育の専念していただくという点でも非常に大事な点と思っている。現実的には、文面等で公にすることは難しいと思っております。実際には、義務教育関係では1月にそれぞれの希望と勤務地と交流の仕組みを説明した上で、支障のないような配置を市町村とも連携して取り組んでいる。今後もそのように対応していきたいと思っている。

事務局

ご指摘のとおり、全国的に教員志望者は奪い合いのようになっており、どの都道府県でもどう

やって我が県の先生になってもらうかという、知恵の出し合いの競争が既に始まっている。そのような中、ここ山梨は首都圏に近いので、その周辺との争いになってくる。委員が言っていた視点は、山梨で教員になろうというPRのリアルな呼びかけになる。これを文書で示すことはなかなか難しいが、いかにあの手この手を尽くすかという点では、十分検討していくべき視点だと思うので、どのようにPRしていくか我々も考えていきたい。引き続き、アイデアなり御意見をうかがえるとありがたい。

委員

今年から採用年齢が59歳まで引き上げられた。多分50代の方も受けられたし、採用もされたんじゃないかなと予測をしています。例えばある程度年齢がいった方が受ける場合は、いくつかのパターンがあると思う。他の都道府県で教員をされていて山梨に来た。あるいは戻りたいとかもあり得る。あるいは全く今まで教員の経験がないけれど、他の仕事を辞められて、でも教員免許を持っているから、やってみたいという人もいる。でも多いのは期間採用とか非常勤等々で、既に県内の学校で教鞭をとられていて、でも正規の方が良いなというふうな形かなと思っている。アピールという点では、リカレント教育ですね。山梨はそういったパターンに合わせてリカレント教育をやっている、あるいはやるんだと。例えば、県外で教員をされた方は、山梨の教育の特徴、山梨はこうやっていますよということも必要だろうし、特に教員の経験がない方は、免許を取っていたときの教育現場での課題と今の課題がちょっと違っていたり、空白があるんですね。日本教育大学協会で課題にさせていただいたんですが、リカレント教育を養成大学がどうやっていくかとかすごく大きな課題で、ここも協力を是非させて下さい。実情が私たちは読めないで、山梨県の教員採用に当たって、どういったリカレント教育が必要なのか、これは個別というわけにはいかないけど、グルーピングしていいと思うが。それに応じて大学も協力する。例えば全く教員の経験がない方に関しては、より教育のことを分かってもらわなければいけないし、今の課題はこうだとかということを県教委にご協力しながらやっていけるようにする。ぜひ何か自信持っているという、安心して教員になっていけるような。つまり例えば採用試験に受かって今の時期に何か補習、研修が受けられる。そういうのは、もう大学は全面的に協力しますので、ぜひまたいろいろお話をお聞かせいただきながら、また一緒にやっていければいいかと思う。大学も協力をします。

委員

リカレント教育とか、大学と何か一緒にやるときに、地理的な条件もかなりあると思う。例えば、ICTとか指導法とか、大学院や研修生でもそうだが、通える範囲内に、積極的な研修の意図がある先生を転勤させていただくとか、そのような場所的条件みたいなものを少しやっていくことも人を呼ぶ大きなものになるのではないかな。例えば、山梨県だと自分の力量をこういうところを上げたいというときに、近隣の県外の大学と協力し合って、甲府だとか都留近辺、大月だとか都留だとかに配置してもらい可能性があり得るということがかなり明確だと、ちょっと勉強してみようかという人が多くなってくるような気もしている。特に新しい今までちょっと仕事から離れていた人が戻ってくるなんていう時にも、そういうのが利用できるのかなと思うので。なかなか制度的には無理なんではしょうけれども、話し合いをしながらそういうことってというのは重要なことかなと最近も思っている。

事務局

今大学から提案いただきましたことは大変重要な問題であり、かつ緊急な課題だと思っている。

一つは大量退職による数のこと。そしてこれまでの採用人事に関わって年齢バランスのこともある。さらには様々な教育課題を考えると幅広い経験を持った方が教職に就くということが、これからの教職教員にとって必要なと思っている。すべてがすぐにというわけにはいかないかもしれないが、貴重なご提案ですので、ぜひ実現に向けて努力をしたい、具体的に考えていきたいと思う。

委員

研修が非常に工夫されていて、GIGAスクール構想等もあったりして、教育の変わり目の大きな変革期にあると思う。大変いろいろなアイデアが出て工夫されているということ、今日の説明を聞いて思った。

この研修の中で一つ心に引っ掛かったのが、期間採用者の研修に力を入れているということだが、私の周りにも期間採用で毎年受けているがなかなか受からないと、ちょっと迷いが生じたり悩んだりしたりする人がいるということを知っている。この人たちが、どんなふうに研修を、研修を受けておかないと知識が身につかないと思うが、今の研修でどのくらいの方が期間採用の研修を受けていて、またその方達が意欲を持ってやるような気持ちになってもらいたいと思うが、その現状を教えてください。

事務局

期間採用者の研修会は二つ。一つは新期間採用を対象にした研修。4月の下旬、今年ではできなかったが。もう一つは新期間採用者を含めて一般の期間採用者の研修を二日設けている。いずれも、教員としての心構え、法的な教員として守らなければいけない規範とかを研修で行っている。よりよい授業づくりに対する工夫の講義を行っている。今年はコロナのことがあり30数名、例年では新期間採用の研修会では、85名の定員でほぼいっぱいになる。期間採用の研修会は30名で行われている。

事務局

センターの説明に加えて、小中学校に対してはグローアップ研修で一人当たり1回4時間程度、年間3回アドバンスティーチャー、退職した校長先生方が、地区ごとにおいて全体で、11名ほどがいる。その方が授業を見ながら指導する。2年目は必修、3年目は希望者ということで今年度も進めている。本県では管理主事が全員と面談しているので、希望を聞きながら配置をしている。全員と面談しているのは全国で山梨のみ。先生方の希望を聞きながら配置を工夫していきたい。

(5) その他

委員

自己観察書に関わる育成指標の活用で、ミドルリーダーの育成が急務であり、それぞれの若手・中堅の毎年の立ち位置を毎年確認することが必要と思っている。その一環として、自己観察書の中での研修ということで、面談の時に有効な手立てとなっている。このような取組を全県の校長達に確認していく必要がある。

ICTの活用に関わって、一つは学びの多様化に対応する。もう一つは教員の多忙化、働き方改革に関わるという点で、今から有効になっていくと思っている。ただ、これを急激に変化させていくことができるかという現場感覚ではその辺はなかなか難しいということが実感。現場では若い教員の方が非常に、こういうことがスキルとして長けている。アイデアもとても柔軟性があって、ベテランの教員も若手から学ぶということが十分に現場ではできていると思っている。

徐々にいろんな現場も変わっていくことができればと思っている。多忙化改善に資することであれば、それが現場にいろんな人材を呼び込むことになる。外に対してのアピールになると思う。

事務局

I C Tの活用について、これから色々なところにメッセージを出す際に、急激に対応することを求めるのは難しいというのはおっしゃる通りである。強制的にI C Tを使うことを強いるものではなく、それぞれの先生に応じて、まずは触れていくというステップを積み上げていくことが大事だと思っており、そういうメッセージを出していきたいと考えている。一般的にI C Tは若い先生が馴染みやすいと言われるが、ベテランの先生も馴染む先生は馴染むし、ベテランの先生には指導力の引き出しが多いので、I C T活用を知っていただくと、むしろベテランの先生の方がうまくI C Tを使いこなすことが全国的に見られている。校内での展開をチーム学校で、先生全員で支えながら、共有しながら進めていく雰囲気は是非作っていきたいと思っている。引き続き、御協力をお願いします。

5 報告・連絡

○今後の日程等について

事務局

今後の日程について説明

○その他

事務局

特になし

6 閉会